NIE実践報告

1．タイトル：☆社会科の授業で新聞をいかに活用するか

2．学校名

鹿児島県東桜島中学校

3．実践者名（代表者名）

宮路正

4．学年

第2学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会　6人

6．単元（本時の学習課題）名

なぜ日本は満州事変を起こし、中国との戦争を始めたか。

7．目標(狙い)

・様々な資料をもとに、日本の満州事変から国際連盟脱退までの経緯を理解することができる。
・五・一五事件や二・二六事件について調べることで軍部がどのように政治介入したか考えることができる。

8．評価の視点

・満州事変から国際連盟脱退までの経緯をまとめることができたか。
・二つの事件の経緯を理解し、事件の背景やその後の政治に及ぼした影響を考察できたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

第二次世界大戦と日本（全7時間）
本時　日本の中国侵略（3/7）

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

過程	学習活動	指導上の留意点
課題把握（5分）	1　地図や写真を見て、本時の学習課題を把握する。 2　満州事変について、経過をまとめる。	・学習課題を掲示し、全員で確認させ、本時の学習への関心を喚起する。 ・満鉄線爆破を報じる当時の新聞やパネルから満州事変は関東軍が起こした点に留意させる。
課題追究（40分）	3　日本の国際連盟脱退に対する自分の考えをまとめ、発表する。 4　五・一五事件、二・二六事件の結果，日本の社会における軍部の立場はどのように変化したかを考え、発表する。	・国際連盟脱退を報じる当時の新聞や特集記事から日本が国際的に孤立していったことを理解させる。 ・五・一五事件を報じる当時の新聞や特集記事から軍部の主張や国民の反応などに触れ、当時の日本の状況を考えさせる。
課題整理（5分）	5　本時のまとめをする。	・自己評価カードを使って、本時の学習内容を振り返らせる。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

戦争当時の新聞記事3枚と現在の新聞で取り上げた特集記事3枚を資料として使ったが、生徒は資料の多さにとまどっていたようだ。加えて当時の新聞は文語調で漢字が難しいので、資料として使う場合は、現代仮名遣いに改めたり、生徒の意欲がわくように記事の内容をイラストや漫画で表すなどの配慮が必要だった。

12．成果と課題

授業での新聞の活用、最新の記事を紹介することは、授業に対する意欲・関心が高まることにつながる。ただ、記事の選択や提示の仕方を誤ると生徒の意欲が失われるので難しい記事（漢字や専門用語など）には、教師が補足説明を加えたり、記事を見やすい大きさに拡大しておくなどの手だてが大切である。今後、新聞をより効果的に授業に活用するための指導法の改善に努めていきたい。